

サルモネラ症

家畜で下痢を主徴とする疾病の原因は数多くありますが、**サルモネラ**もそのひとつです。食中毒の原因にもなることから、ヒトへの感染にも注意が必要な病原体です。

▶ 病原体

動物の腸管、自然界に広く分布する細菌で、人や動物に下痢などを起こします。

サルモネラ・ダブリン、**サルモネラ・エンテリティディス**、**サルモネラ・ティフィムリウム** および**サルモネラ・コレラシス**が届出伝染病に指定されています。

▶ 症 状



子牛では、食欲不振、40～42℃の発熱、悪臭のある黄色水様性の下痢・粘血便等の症状を示し、急性のものは数日以内に死亡する場合もあり特に注意が必要です。
成牛では子牛と同様の症状を示すとともに、乳量の低下やまれに早・流産を起こすことがあります。



豚は牛とほぼ同様に、発熱、下痢、一般症状の悪化等の症状を示します。



幼雛では、元気・食欲の消失、嗜眠（常に眠った状態）、下痢の症状が認められ、死亡羽数が増加します。

中雛以上では、多くの場合無症状に経過し、保菌鶏になりやすくなります。

* **サルモネラ・プロラム**によるひな白痢と**サルモネラ・ガリナルム**による家きんチフスは、家きんサルモネラ感染症として法定伝染病に指定されています。

▶ 予 防

いずれの動物においても、サルモネラに感染すれば必ず発症するとは限らず、いつの間にか畜舎全体が汚染されてしまっているというケースもあります。一度、サルモネラが畜舎内に侵入すると、**家畜の体内や糞便、ほこり等に長期間生存**し、清浄化が極めて困難となるため、発生してから抑え込むより、**飼養衛生管理基準を遵守して予防することが最も効果的**です。

- 畜舎内で作業するときは専用の長靴・作業着を着用しましょう。**
普段着や普段履きで畜舎に入らないようにしましょう。
- 畜舎入口に消毒槽を設置し、出入りするときはしっかり長靴を消毒しましょう。**
汚染された長靴で病原体を持ち運ばないようにしましょう。
- 糞掃除で汚れたままの長靴で給餌をしないでください。**
感染した家畜の糞便を他の家畜が口から摂取することで感染が広がってしまいます。
- 畜舎内の清掃、定期的な消毒を実施しましょう。**
畜舎内にいる菌の量を減らすことで感染機会も減らしましょう。
- 畜舎内への野生動物侵入を防止し、見かけたら駆除しましょう。**
ネズミや野鳥等の野生動物も感染源となります。
- 畜舎内作業をした後は手指をよく洗い、消毒しましょう。**
サルモネラは人へも感染します。

